

夢をつなごう遠山森林鉄道復活事業

取組に至る背景・事業の目的

遠山谷の暮らしにとって大きな存在であった林業の最盛期に活躍した、かつての遠山森林鉄道は、遠山の象徴であり誇りであった。そのかけがえのない地域の宝を、地域資源として次の世代に伝えるため、かつて貯木場であった飯田市南信濃木沢地区の「梨元停車場」にレールを敷設し、当時の機関車を走らせる。地域内外の協力を募り、各々の得意分野を集めて事業を進めることで、地域の人々を元気にすると共に、内外の人と人との交流の拡大を狙う。様々な人々を巻き込み復元の過程を通じて、観光資源化していくことを目的とする。

事業内容

- レールの敷設
会員及び地域住民の協力により、将来的に目指す総延長500mのレール敷のうち、アスファルトにかかる部分とレール分岐によって困難とされる箇所の約60mのレール敷設を行った。
- 機関車の修復
約40年間野ざらしであった当時の機関車のエンジンの積み替えや、錆びとりなどの整備を行い走行させることに成功した。
- 「総合ガイド」養成の取組
レール敷設の技術と森林鉄道の歴史知識を併せ持つ「総合ガイド」養成に向け、地元におられる当時のOBに指導を受けると同時に、先進地である王滝村から講師を招き講習会を開催した。



【レールの敷設作業】

事業効果

- 40年ぶりの機関車の復活は内外の関心を集め、報道に取り上げられるだけでなく、博物館の映像にも活動を取り上げてもらい、その存在と地域の活動を広く認知いただく結果となった。これにより、住民はもとより地元の建設・林業の関連会社の協力を得られるようになり、今まで以上に地域全体の森林鉄道を守っていこうという意識が高揚している。
- 機関車や敷設したレールを観るため、足を止める観光客が増えており、県外の団体客のツアー客の立ち寄りスポットにもなり、レール敷設完了前から新たな観光資源となりつつある。



【機関車の設置作業】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 機関車を復活できたことにより、今後は客車や収納小屋の整備に向け、さらに夢が広がっている。
- 地域内外の人と人との交流の場の一つとして到達までの過程を大事にしながら、観光資源としての本格運用の夢に向け、今後もレールの延長を伸ばすとともに、総合ガイドの養成等を含めて夢をつないでいきたい。

【選定のポイント】

40年ぶりに森林鉄道の機関車を復活させ、これを資源として新たに地域の活力や地域内外の人々との交流が生まれており、今後、観光資源としての本格的活用に向け、さらなる活動の広がりが期待される。

団体名 夢をつなごう森林鉄道の会（飯田市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0260-34-1071	事業費	515,921円
メールアドレス sun.ss@mis.janis.or.jp	支援金額	281,000円

